

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和6年12月6日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ 地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人糸魚川市観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 糸魚川市	
所在地	新潟県糸魚川市	
設立時期	平成29年1月24日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	25人【常勤8人（正職員5人・出向等3人）、非常勤17人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 龍見 和弦 （出身組織名） 有限会社たつみ	一般社団法人糸魚川市観光協会の役員として長期に渡り活動し、現在は代表者として地域の調整役や様々な取り組みの中心的人物として引き続き活動している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 岡田 一貴「専従」 （出身組織名） 一般社団法人糸魚川市観光協会 課長補佐	糸魚川市職員であり、観光行政を9年経験し、主に観光地域づくり、誘客宣伝、コロナ対策などの事業を担当してきた。また、県観光局への出向経験もあり、県や県内観光関連事業者とのネットワークも強く、現在は一般社団法人糸魚川市観光協会に出向し、DMO関連業務、広域連携事業、インバウンド事業、他県への営業を担当している。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 齊藤 清一「専従」 （出身組織名） 一般社団法人糸魚川市観光協会 事務局長	糸魚川市職員であり、平成9年から糸魚川市東京事務所で約14年間勤務し、日本ジオパークネットワークの事務局長として活動。経営管理、自主財源の確保、国内外のジオパーク関係者等とのネットワークを活かした連携に長け、現在は一般社団法人糸魚川市観光協会に出向し、DMOの経営、組織体制の強化などを担当している。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右	（氏名） 中澤 友也 （出身組織名） 一般社団法人糸魚川市観光協会 課長	民間企業の合同会社DMM.com社員であり、総務省の地域活性化起業人制度により糸魚川市へ出向、令和5年より糸魚川市から一般社団法人糸魚川市観光協会に派遣されている。現在は出向元企業のノウハウを活かし、情報発信、誘客促進、DXの担当をしている。

横に「専従」と記入すること		
各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 縄井 美里 （出身組織名） 一般社団法人糸魚川市観光協会 主任	主に着地型旅行商品の企画、造成、販売を担当。商品造成に必要な企画力だけでなく、プロモーション、営業活動など多岐に渡る旅行業全般を担当している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【新潟県糸魚川市】 ・商工観光課（誘客促進、マーケティング関連、市役所窓口担当課） ・都市政策課（二次交通関連） ・農林水産課（一次産業関連） ・企画定住課（地域づくり、定住促進関連） ・教育委員会（教育旅行、文化施設及び文化財関連） ・建設課（社会資本整備関連） ・財政課（財源関連）	
連携する事業者名及び役割	【地域づくり、商品開発、旅行業全般】 ・糸魚川商工会議所 ・能生商工会 ・青海町商工会 ・糸魚川青年会議所 ・糸魚川旅館組合 ・糸魚川民宿協会 ・糸魚川うまいもん会 ・糸魚川ジオパーク観光ガイドの会 ・糸魚川観光物産センター ・能生町観光物産センター 【二次交通等の交通系】 ・ＪＲ西日本 ・えちごトキめき鉄道 ・糸魚川バス ・頸城観光バス ・糸魚川ハイヤー協会 ・まちなかレンタサイクル協議会	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①・② （概要）多様な関係者で構成する観光地域づくり法人（DMO）一般社団法人糸魚川市観光協会として、年間２回の総会、複数回の理事会を行い、DMOとしての活動の行き決定を行っている。また、着地型旅行商品の開発、コンテンツの磨き上げ、受入体制整備に向けた検討を行っているほか、ガイド育成やインバウンド誘客などのテーマに沿った委員会をその都度必要に応じて設置し、地域事業者との合意形成を常時図りながら事業を行っている。	
	〔参考〕登録要件 ①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画 ②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置	

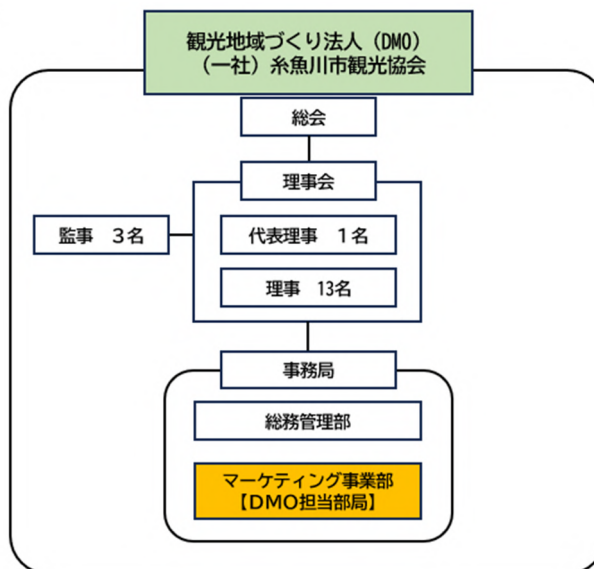
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	・市民を対象とした満足度アンケート調査を毎年行っており、DMO としての取組の周知や市民の意識、DMO の認知度分析を行い、意識啓発と成果分析を行った。 ・官公庁、宿泊業、二次交通、飲食関連の団体の会議等に積極的に出席し、事業の連携や意見交換等を通じて、DMO の取組に対する意識啓発を行った。 ・市内小中高の総合的な探求授業に講師、アドバイザーとして参加し、地域づくり、観光誘客の取組を学生と一緒に企画、実施していく取組を行い、地域づくりの重要性、学生世代からの参画促進に努めている。 (例) 定期的に住民参加型のワークショップを開催するほか、地域住民への啓発を目的としたシンポジウムを開催				
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】 <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 629 619 674">事業</th><th data-bbox="619 629 1409 674">実施概要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 674 619 1944"> 情報発信・プロモーション </td><td data-bbox="619 674 1409 1944"> 令和 6 年度情報発信・プロモーション事業 ・ユネスコ世界ジオパークの認定、国石ヒスイの選定に加え、令和 4 年 11 月に新潟県の石に指定されたことを受け、これまで継続して行ってきた「石のまち糸魚川」をコンセプトに代表となるヒスイ、その他多種多様な石と、それらが生まれた自然、その自然から育まれた食や歴史、文化を一体となって情報発信を実施している。 ・とくに、市内の様々な団体で個々に行っていたヒスイ・石のまち糸魚川の情報発信事業を、より効率的かつ効果的に実施できるよう、事業内容、予算を一元集約して実施した「いといがわサマーロック（石）フェス（通称：石フェス）」を令和 5 年に初開催し、令和 6 年度も DMO の主要事業の一つとして実施した。 ・石フェスでは、市内飲食店等にヒスイや石にちなんだ新メニュー「石メシ」の開発協力を要請、提供を行った。 ・現在、石拾い体験が主力なコンテンツとなっているが、それだけでは街中にお金が落ちないということが長年の大きな課題であったが、石メシの提供と発信により、期間中の街中への誘客に大きく効果があり、飲食店を中心とした街中の経済効果を高めることができた。 ・情報発信においては、ヒスイだけでなく、フォッサマグナの大地形成により糸魚川では多種多様な石が観察できることを全面に出し、「糸魚川ならではの」に重点をおいた情報発信を行っている。 ・また、観光入込に関するデータを元に、ターゲットや発信する素材によって情報発信手法を検討、選択し、予算のコストパフォーマンスを意識した発信を行っている。 ・観光協会の公式 LINE アカウントの開設を令和 5 年度から行い、3,000 人近くの友達登録を獲得し、主要な情報発信ツールとして活用しているほか、Instagram や Facebook、X などの SNS も常時活用し、糸魚川の旬な情報を発信している。 ・主要なターゲットは新幹線沿線の首都圏、関西圏となるため、県観光協会主催の商談会や営業を通じ、旅行商品の造成促進、新規コンテンツの提供などを常時行い、糸魚川を組み込んだ旅行商品造成を継続的にやっている。 </td></tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	情報発信・プロモーション	令和 6 年度情報発信・プロモーション事業 ・ユネスコ世界ジオパークの認定、国石ヒスイの選定に加え、令和 4 年 11 月に新潟県の石に指定されたことを受け、これまで継続して行ってきた「石のまち糸魚川」をコンセプトに代表となるヒスイ、その他多種多様な石と、それらが生まれた自然、その自然から育まれた食や歴史、文化を一体となって情報発信を実施している。 ・とくに、市内の様々な団体で個々に行っていたヒスイ・石のまち糸魚川の情報発信事業を、より効率的かつ効果的に実施できるよう、事業内容、予算を一元集約して実施した「いといがわサマーロック（石）フェス（通称：石フェス）」を令和 5 年に初開催し、令和 6 年度も DMO の主要事業の一つとして実施した。 ・石フェスでは、市内飲食店等にヒスイや石にちなんだ新メニュー「石メシ」の開発協力を要請、提供を行った。 ・現在、石拾い体験が主力なコンテンツとなっているが、それだけでは街中にお金が落ちないということが長年の大きな課題であったが、石メシの提供と発信により、期間中の街中への誘客に大きく効果があり、飲食店を中心とした街中の経済効果を高めることができた。 ・情報発信においては、ヒスイだけでなく、フォッサマグナの大地形成により糸魚川では多種多様な石が観察できることを全面に出し、「糸魚川ならではの」に重点をおいた情報発信を行っている。 ・また、観光入込に関するデータを元に、ターゲットや発信する素材によって情報発信手法を検討、選択し、予算のコストパフォーマンスを意識した発信を行っている。 ・観光協会の公式 LINE アカウントの開設を令和 5 年度から行い、3,000 人近くの友達登録を獲得し、主要な情報発信ツールとして活用しているほか、Instagram や Facebook、X などの SNS も常時活用し、糸魚川の旬な情報を発信している。 ・主要なターゲットは新幹線沿線の首都圏、関西圏となるため、県観光協会主催の商談会や営業を通じ、旅行商品の造成促進、新規コンテンツの提供などを常時行い、糸魚川を組み込んだ旅行商品造成を継続的にやっている。
事業	実施概要				
情報発信・プロモーション	令和 6 年度情報発信・プロモーション事業 ・ユネスコ世界ジオパークの認定、国石ヒスイの選定に加え、令和 4 年 11 月に新潟県の石に指定されたことを受け、これまで継続して行ってきた「石のまち糸魚川」をコンセプトに代表となるヒスイ、その他多種多様な石と、それらが生まれた自然、その自然から育まれた食や歴史、文化を一体となって情報発信を実施している。 ・とくに、市内の様々な団体で個々に行っていたヒスイ・石のまち糸魚川の情報発信事業を、より効率的かつ効果的に実施できるよう、事業内容、予算を一元集約して実施した「いといがわサマーロック（石）フェス（通称：石フェス）」を令和 5 年に初開催し、令和 6 年度も DMO の主要事業の一つとして実施した。 ・石フェスでは、市内飲食店等にヒスイや石にちなんだ新メニュー「石メシ」の開発協力を要請、提供を行った。 ・現在、石拾い体験が主力なコンテンツとなっているが、それだけでは街中にお金が落ちないということが長年の大きな課題であったが、石メシの提供と発信により、期間中の街中への誘客に大きく効果があり、飲食店を中心とした街中の経済効果を高めることができた。 ・情報発信においては、ヒスイだけでなく、フォッサマグナの大地形成により糸魚川では多種多様な石が観察できることを全面に出し、「糸魚川ならではの」に重点をおいた情報発信を行っている。 ・また、観光入込に関するデータを元に、ターゲットや発信する素材によって情報発信手法を検討、選択し、予算のコストパフォーマンスを意識した発信を行っている。 ・観光協会の公式 LINE アカウントの開設を令和 5 年度から行い、3,000 人近くの友達登録を獲得し、主要な情報発信ツールとして活用しているほか、Instagram や Facebook、X などの SNS も常時活用し、糸魚川の旬な情報を発信している。 ・主要なターゲットは新幹線沿線の首都圏、関西圏となるため、県観光協会主催の商談会や営業を通じ、旅行商品の造成促進、新規コンテンツの提供などを常時行い、糸魚川を組み込んだ旅行商品造成を継続的にやっている。				

		・DMOの活動の理解と合意形成を図るため、住民満足度調査を毎年1回行い、合意形成のとれた観光地域づくりと事業実施のエビデンス構築を行った。
	受入環境の整備	令和6年度受入環境の整備 ・観光案内所を市内4箇所に設置し、糸魚川に訪れた観光客に対する観光案内等を常時行った。 ・令和5年7月まで糸魚川駅自由通路にも案内所を設置していたが、インバウンドの対応と人手不足の解消の両面を改善するため、AI観光案内端末を導入し、DX化の実現と多くの問合せに常時対応している。 ・糸魚川駅アルプス口では、ジオパーク観光インフォメーション（観光案内所、観光協会事務局併設）、キハ52実写待合室及びトワイライトエクスプレス模型展示、ジオラマ鉄道模型ステーションの3つのエリアがあり、糸魚川駅へ立ち寄るお客様に糸魚川の魅力を伝える重要な観光中核施設となっており、当該施設の管理運営を市から受託することで、財源の確保に努めている。 ・令和6年11月より、市の事業としてジオラマの運転体験を従来のアナログ式からデジタル式に改良し、受託事業者としてお客様の満足度向上につなげている。 ・また、学生などの若年世代が駅周辺に集まる機会を創出するため、プリクラ機やガチャの設置など、駅で楽しめるかつ観光協会の収益にもつながる取り組みを行っている。 ・令和6年1月1日に発生した能登沖地震によって糸魚川市も大きな被害を受け、旅行需要が大きく落ち込んだことから、北陸応援割と同時期に市内旅行客向けの地域通貨「翠ペイ」の付与キャンペーンを実施し、旅行送客による市内観光関連事業者への経済効果を図った。 ・冬季は長野県白馬村に多くのスキーインバウンド客が来られ、それらインバウンド観光客に海の食を紹介することで糸魚川への誘客を図るシーフードシャトルバス事業をこれまで実施してきた。 ・令和6年度からはこれまでの食事の送迎バスではなく、糸魚川で食を楽しむ日帰りツアーとして実施予定であり、多くのインバウンド観光客の誘客を図っていききたい
	観光資源の磨き上げ	令和6年度観光資源の磨き上げ事業 ・ヒスイだけでなく多種多様な石が拾えることに焦点を当てた着地型旅行商品をこれまで造成販売し、糸魚川の主力商品として確立されており、毎回大きな集客が見込めるツアーとなっている。 ・一方で課題となっていたのが、回数をこなせないということがあり、それらを解消するため、石拾いのガイドと連携し令和6年7月から8月にかけて、夏休み期間中ほぼ毎日石拾いツアーを実施し、多くの集客を実現できた。 ・糸魚川市には数多くの学芸員が在籍しており、それぞれの得意分野に特化し、学芸員が案内する専門性の高いツアーを造成販売し、実施した。普段は触れ合う機会がなかなかない学芸員が一日同行し、専門的なガイド、質疑応答を行うプレ

	ミア感を付けることで料金も高めに設定し、収益向上につながることができた。 ・糸魚川の冬の代表コンテンツであるあんこうのプロモーションとしてこれまで継続して行ってきたあんこうフェアの取り組みについて、あんこうフェアでは 10 kg 以上の糸魚川産あんこうを使う飲食店のみがフェア参加条件となっていたが、安定供給や保存の関係で参加要件のハードルが高かったことから、糸魚川産ではないあんこうの利用も可能とし、なぜ糸魚川であんこう料理が食べられるかというあんこう料理の文化の発信に焦点を当て、フェアを開催したほか、アンケートキャンペーンを新たに実施し、あんこう料理店の利用促進と今後の戦略に向けたデータ収集を行った。 ・地域のお菓子製造業者や地元高校生と連携した、糸魚川の新たなお土産、グルメ開発、新規顧客や新商品販促のためのイベントを企画、実施した。 ・お菓子の新商品は、修学旅行で来る学生がワンコインで買えるお土産をテーマに、糸魚川のゆるキャラクッキーを開発、販売した。 ・グルメ開発は地元県立海洋高校と連携し、あんこうを通年でもおいしく食べられるようなメニュー開発をテーマとして、あんこうのから揚げを使ったあんこうバーガーを開発販売した。 ・イベント企画では、市内のお菓子屋さんと連携し、卒業・入学商戦を見据えた 2 月下旬に旬のいちごを使用した新スイーツ開発を行い、イベントの企画、告知宣伝を DMO として実施した。 ・また令和 6 年度は新たなイベント事業として、石フェスのフィナーレイベントの位置づけで糸魚川プロジェクトマップピングイベント翠のきらめきを実施。 ・会場となった玉翠園・谷村美術館では糸魚川をイメージするヒスイ、海、火山などの大地の歴史と文化をテーマにした映像を映写し、多くのお客様にご来場いただいた。 ・これまでは玉翠園・谷村美術館独自の紅葉ライトアップを企画していたが、タイアップ事業としても行ったため、相乗効果により集客力向上の一助にもなった。
	【定量的な評価】（実績は令和 5 年度実績） ■ホームページ、SNS 実績 ・HP 閲覧数 919,947 PV（対前年比 101%） ・Instagram フォロワー数 2,358 人（対前年比 127%） ・Facebook フォロワー数 2,591 人（対前年比 106%） ・X（旧 Twitter）フォロワー数 1,117 人（対前年比 139%） ・LINE 登録数 1,230 人（令和 5 年度新規設置） ・HP 閲覧各県別実績（閲覧割合） - 新 潟 県：11.05%（全体 2 位） - 県 外：88.95% - うち東京：30.77%（全体 1 位） - うち東京以外の首都圏（千葉・埼玉・神奈川）：10.51% - うち関西圏（大阪・京都・兵庫）：9.05%

	うち長野県：4.53%（全体5位） うち富山県：2.33%（全体10位） ■観光案内所実績 ・糸魚川駅アルプス口案内所：6,151件（対前年比109%） ・糸魚川駅日本海口案内所：6,050件（対前年比101%） ・糸魚川駅自由通路案内所：4,699件（対前年比319%） ※R5は8/1からAI端末導入 ・道の駅マリン・リゾート能生案内所：12,662件（対前年比196%） ・道の駅親不知ピクニックパーク案内所：6,340件（対前年比109%） ■ジオパル入込者数 ※有料運転体験者数 ・令和5年度：5,474人（対前年比93%） ■旅行商品造成支援及び域内消費額（推計）実績 ・補助金申請団体数：94件（対前年比124%） ・催行本数：67件（対前年比116%） ・補助金助成額：4,026,000円（対前年比331%） ・域内消費額（推計）：23,481,000円（対前年比214%） ■ツアー実績 ・募集型企画旅行 催行本数32本（対前年比119%） 催行人数437人（対前年比115%） ・受注型旅行 受注本数2本（対前年比100%） 催行人数120人（対前年比706%） ・手配旅行 手配件数21本（対前年比34%） 手配人数884人（対前年比59%） ■あんこうフェア参加店 ・フェア参加店：25店 ・キャンペーン申し込み：121名 ■新規イベント実績（サマー石フェス 石メシ提供実績） 参加店舗：24店舗 概算販売数：約4,500食 概算売上：約250万円 推定域内消費額：約430万円
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	【実施体制の概要】 （一社）糸魚川市観光協会が母体となり、交通事業者、宿泊事業者、飲食事業者、行政、商工会議所、商工会、農林水産業事業者など、多様な関係者が組織の会員または委員、関係者として関わっている。 これまでは観光協会の部会の一つとしてDMO連携会議を設置し、着地型旅行商品の企画や課題意識などを共有、解決に向けた取組を行ってきたが、母体である観光協会そのものがDMOであること、行政の観光担当課からも市職員を出向し、行政とDMOで行っている業務で重複しているものの統合、DMOとして観光地域づくりを進める地盤整備が必要との観点から、DMOとして観光を切り口とした持続可能な地域づくりを進めていくことを本筋に据え、関係者、組織が一体となって活動して行くことを念頭に、組織体制を改編している。

【実施体制図】



令和6年度から、徐々に行政の観光担当部署との業務統合を見据え、組織改編を行っている。

そのなかで、新たに地域づくりを担う「地域づくり部（仮称）」を事務局内に設置し、DMOの地域づくりに関する担当部局として活動して行く予定。

2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

2005（平成 17）年に、1 市（糸魚川市）、2 町（能生町、青海町）が合併して現在の糸魚川市が誕生し、2015（平成 27）年度には、1 市 2 町の 3 つの観光協会が合併して、「糸魚川市観光協会」が発足し、旧 3 つの観光協会は支部として各地域のイベント等を担うこととなった。

新たな糸魚川市観光協会は、市域が 2009（平成 21）年に日本発の世界ジオパークに認定され、24 か所のジオエリアを基本に、特色ある自然と文化、食等を基本に、持続可能な観光施策を推進している。

また、2015（平成 27）年には、北陸新幹線糸魚川駅開業を記念して、糸魚川駅の乗降利用やキャンペーン等による認知度向上、2013（平成 25）年には糸魚川駅を中心として、加賀街道（北前船文化）や塩の道等で所縁のある近隣の市町村で組織する「北アルプス日本海広域観光連携会議」（新潟県：糸魚川市、上越市 富山県：朝日町 長野県：小谷村、白馬村、大町市）を組織し、鉄道会社と連携してサイクリングでの輪行バッグ無料貸し出しやサイクルトレインの実施、白馬エリアのスキーによるインバウンドを対象としたお食事シャトルバスシーフードシャトルバスの運行、台湾へのセールスコールなどを行い、広域観光周遊促進による魅力アップ、域内消費額の向上を推進している。

【観光客の実態等】

北陸新幹線糸魚川駅の 1 日の平均乗降者数について、開業時の 2015（平成 27）年度と比較すると、コロナ流行前の 2018（平成 30）年度の乗降数は減少傾向であり、さらに、2019（平成 31・令和元）年度途中からコロナ禍となったことで大幅な減少傾向が続く、同時に市内観光客の入込数、宿泊数も同様に減少傾向が続いた。

そのため、コロナ禍における感染対策の徹底、屋外での安心できるアクティビティ、マイクロツーリズムを基本とした着地型旅行商品の企画、造成の強化を行う必要性が高まり、旅行商品の造成、販売スキル向上を図るため、同年より大手旅行会社の現役社員 1 名を派遣いただき、旅行商品の販売による収益向上、プロモーション強化につながることができた。現在は徐々に観光客も復活し、コロナ前に戻りつつある。

主な客層は、県内、首都圏、関西圏の順に多く、その多くはファミリー層となっている。石拾いを中心とした体験メニューが人気であり、情報発信プロモーションも子どもに刺さるコンテンツを紹介することで、ファミリー層獲得が進んでいる。

消費額も年々上昇傾向となっているが高止まり感もあり、観光コンテンツの磨き上げや満足度向上につながる取り組みを今後進め、入込、宿泊者数、消費額を向上していく。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

主要資源：ヒスイ、ベニズワイガニ、あんこう

観光施設：フォッサマグナミュージアム（ヒスイ、鉱物の展示、石の博物館）

長者ヶ原考古館（世界最古のヒスイ文化）

翡翠園、玉翠園・谷村美術館（ヒスイ原石を配した日本庭園）

糸魚川ジオステーションジオパル（鉄道模型展示施設）

商業施設：ヒスイ王国館（北陸新幹線糸魚川駅に直結する物産店）

道の駅マリンドリーム能生（ベニズワイガニ市場、鮮魚店、飲食店、物産店）

道の駅親不知ピアパーク（鮮魚店、飲食店、海水浴場、石ひろい）

道の駅市振の関（タラ汁）

能生漁港セリ市場（昼セリ見学）

自然景観：ヒスイ海岸（ヒスイをはじめとした石ひろい）※糸魚川、須沢、親不知、市振

小滝川ヒスイ峡、青海川ヒスイ峡（ヒスイ原石）

高浪の池（石灰岩でできた明星山、糸魚川真柏自生地、キャンプ場）

フォッサマグナパーク（断層露頭）

弁天岩（海底火山噴火による岩礁、恋する灯台）

山（登山）※小蓮華山、雨飾山、新潟焼山、拇海新道など

森林公園等（キャンプ場）※美山公園、高ノ峰プラトー、須沢海岸オートキャンプ場

文化施設：糸魚川市民会館、青海きらら文化会館、相馬御風宅、糸魚川歴史民俗資料館

イベント：いといがわサマーロックフェス、糸魚川荒波あんこう祭り、日本海クラシックカーレビュー、親不知バイクミーティング、糸魚川・上越・妙高 SEA TO SUMMIT、糸魚川おまんた祭り、奴奈川祭り、糸魚川塩の道起点まつり、翠風展、たかなみ祭り、いといがわバル街

文化財：天津神社春季大祭、能生白山神社春季大祭、根知山寺の延年、青海の竹のからかい

各観光資源はDMO主催のツアー商品にそれぞれ組み込んで活用しているほか、観光施設や商業施設はイベント会場としての活用、自然景観のうち、糸魚川真柏は地元盆栽関係者と連携して通販販売を行うなど、商業利用をしながら収益確保に努めている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

温泉施設 9 件、ホテル 6 件、民宿 11 件、その他 3 件の合計 29 件の宿泊施設がある。

域内分布では、糸魚川地域が全体の 62.0%、能生地域 24.2%、青海地域 13.8%分布している。

収容人数としては、全体で 1,395 人、最も大きい宿泊施設では最大 222 人の宿泊が可能であり、修学旅行などの大口旅行での対応は当該宿泊施設が核となって行っている。

また、長野や群馬などの内陸からの臨海学校は、海のコンテンツの多い能生地域の民宿に宿泊、青海地域は大規模工場があるため、定期修繕による宿泊客などのビジネス利用がメインとなっており、それぞれの地域で宿泊ターゲットが明確化されている。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

鉄道では北陸新幹線（東京駅から約 2 時間、大阪駅から約 3 時間）、JR 大糸線、えちごトキめき鉄道の停車駅があり、車では北陸自動車道がある。二次交通としては糸魚川バス、タクシー、レンタカー、定期観光バス、レンタサイクルなどがある。

【外国人観光客への対応】

市内にある観光案内所 5 か所において、多言語翻訳機を配置して対応している。

また、今後多言語対応可能（日本語、英語、中国語、韓国語）な AI 案内の導入を予定している。

ホームページもインバウンド対応として英語版、中国語版（簡体字、繁体字）を表示している。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	観光施設で来場者に聞き取り調査を実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	宿泊施設を対象に調査を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	観光施設で来場者に聞き取り調査を実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	観光施設で来場者に聞き取り調査を実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	観光協会ホームページのページビュー数調査を実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	住民を対象としたアンケート調査を実施。
主催ツアーの満足度	ツアー商品の効果検証のため	ツアー参加者へのアンケート調査を実施。
糸魚川ジオステーションジオパル利用者数	北陸新幹線糸魚川駅を中心とした情報発信の効果検証のため	観光協会で調査を実施。
フォッサマグナミュージアム入館者数	ジオパークの情報発信の核となる入館者を分析するため	フォッサマグナミュージアムで調査を実施。

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

糸魚川市では、2005（平成 17）年に 1 市（糸魚川市）、2 町（能生町、青海町）が合併して以来、人口減少が続いており、高齢化、後継者不足等で宿泊や飲食、物産などの観光関係事業者においても厳しい状況が続いている。

加えて 2019（平成 31・令和元）年度に新型コロナウイルス感染症が流行し、糸魚川市の観光業においても大変大きな影響を受け、市内経済の著しい停滞が起こった。

一方で、糸魚川市は日本海から北アルプスの山々まで壮大なスケールで大地が広がり、その個性豊かな自然景観、森林資源、鉱物資源、水産資源など、観光に関わる資源が多数存在し、とくにフォッサマグナと糸魚川ー静岡構造線が、現在の日本列島誕生を物語る世界的な学術資源であるとの観点から、ユネスコの「世界ジオパーク」に 2009（平成 21）年 8 月に、日本で初の認定を受けた。

また、その特徴的な大地から生み出される糸魚川市が最も誇る観光素材「ヒスイ」は 2016（平成 28）年に日本鉱物学会により国の石として選ばれ、2022（令和 4）年に新潟県の石に指定されるなど、大変大きな注目を浴びており、ヒスイが誕生する特徴的な地形により、美しい景観、おいしい海・山の幸、特徴的な食文化、現在の生活につながる生活文化を一体的なストーリーを持たせ、ヒスイ以外にも多種多様な石があることから「石のまちいといがわ」をキャッチフレーズとして DMO、行政、地域関係者が一体となったシティプロモーションを行い、徐々に認知度の向上、落ち込んだ観光入込客の増加につながってきている。

2016（平成 28）年 12 月には糸魚川駅前を中心街で糸魚川駅北大火が発生し、147 棟を焼失する甚大な大火となったが、その後新しい街並みが整備されるにつれ、市外から災害に強い街づくりとして視察、学習などを目的とした街歩きツアーなども人気が高まっている。

このような状況の中、観光地域づくり法人として、宿泊、飲食、物産等の観光関連事業者と連携した市内経済の好循環を生み出すことによるまちづくりを推進し、それにより新たな雇用の創出、交流人口の拡大、さらには移住定住による人口減少に歯止めをかけるべく、持続可能な街づくりを目指し、様々な事業を行っている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・糸魚川ユネスコ世界ジオパーク ・世界最古のヒスイ文化発祥の地 ・国の石、県の石のヒスイ ・多様な食材（海産物、農産物など） ・特徴的な地形景観（日本海と北アルプス）	弱み (Weaknesses) ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・生業としての観光ガイドの育成 ・二次交通の不足 ・買い物などの消費コンテンツ不足
外部環境	機会 (Opportunity) ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・北陸新幹線敦賀延伸をはじめとする交通網 ・大阪関西万博 ・佐渡世界遺産登録 ・周辺地域のインバウンドの回復	脅威 (Threat) ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・人材不足による地域の事業衰退 ・空き家、廃屋による景観悪化

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

国内旅行観光客（関東圏、関西圏、隣県）のファミリー層

○選定の理由

- ・令和5年度観光統計（方面別宿泊施設入込客数）では、関東圏が全体の1位（前年2位）、関西圏が全体の4位（前年同位）であり、令和5年度の観光協会ホームページ閲覧数も関東圏が全体の48.24%を占めているため、誘客の期待値が高い。
- ・関東圏においては北陸新幹線糸魚川駅開業以降、約2時間で来訪することが可能になったこと、関西圏は令和5年3月に開業した北陸新幹線敦賀延伸の効果と、今後控えている大阪万博をフックとした誘客が期待される。
- ・隣県においては、長野県は夏の海水浴とベニズワイガニ、富山県は冬のおんこう料理でのプロモーション効果が高いため、引き続きターゲットとして設定する。

○取組方針

- ・「石のまちいといがわ」をコンセプトに、石ひろい、石を学ぶ、石にまつわるグルメを楽しむといった、着地型旅行商品の企画造成、プロモーションを推進する。
- ・北陸新幹線や北陸自動車道、上信越自動車道の沿線で行われる商談会やイベントに積極的に参加し、旅行会社や観光客向けのPRを推進する。
- ・塩の道とJR大糸線の利活用、日本海沿岸沿いの加賀街道とえちごトキめき鉄道のリゾート列車雪月花、観光急行をそれぞれ活用し、交流人口の拡大を図る。
- ・サイクルツーリズム推進のため、輪行バッグの無料貸出し、サイクルレインの利用促進を行う。
- ・レンタサイクルの台数整備、導入したEバイクの利用PRを行い、二次交通強化を図る。
- ・隣県である長野県には夏の海水浴、ベニズワイガニ、富山県には冬のおんこう料理をPRし、交流人口の拡大を図る。
- ・上越市、妙高市と連携して実施する株式会社モンベル特別協賛イベント「SEA TO SUMMIT」を実施し、3市が持つ自然景観、アクティビティの可能性を最大限にPRし、地域ブランド磨き上げを行う。

○ターゲット層

国内旅行観光客（新潟県内、その他近県）、教育旅行

○選定の理由

- ・令和5年度の糸魚川市の観光統計調査（方面別宿泊施設入込客数）では、新潟県内が全体の2位（前年1位）であり、依然として県内比率が高いため、誘客効果が見込める。
- ・また、2022（令和4）年11月に新潟県の石にヒスイが選定されて以降、県民向けにヒスイのPRとヒスイをフックとした誘客促進を行っており、とくにファミリー層の獲得が進んできている。
- ・教育旅行においては、日本列島の成り立ちと活動、人々の暮らしなどから、中学校新学習指導要領（令和3年）で新たに改定された「大地の成り立ちと変化」との親和性が高く、フォッサマグナミュージアムや長者ヶ原考古館、国指定天然記念物の小滝川ヒスイ峡などを題材として、SDGsへと繋げる学びや体験による教育旅行の誘致の効果が高いため選定する。

○取組方針

- ・「石のまちいといがわ」をコンセプトに、県の石ヒスイも含めた認知度向上、ひいては糸魚川＝ヒスイのイメージ定着を図るためのプロモーション活動を実施する。
- ・県内で行われる物産展やイベントに積極的に参加し、出張ヒスイ探し体験などの催し物を行ってヒスイのPRを実施する。
- ・教育旅行においては、ヒスイや特色のある地形地質を活かした地学に通じる教育旅行、特色のある自然、食、文化、暮らしなどを体験する農林水産業の体験学習、臨海学校などの誘客を推進する。
- ・すでに固定で来られている教育旅行をモデル化し、他校への営業等を行いながら、糸魚川での教育旅行としてのブランド力を高めていく。

○ターゲット層 インバウンド（通年：台湾／冬季：オーストラリア）
○選定の理由 ・北アルプス日本海広域観光連携会議（糸魚川市、上越市、朝日町、小谷村、白馬村、大町市）で、2018（平成 30）年度から 2019（平成 31・令和元）年度まで、台湾旅行会社へのセールスコール、ファムトリップなどを実施し、台湾からの誘客を図ってきた。 ・同団体の 2023（令和 5）年度事業として、コロナ明けにおける台湾へのプロモーションとして、台湾現地で言う旅行博への出展、セールスコール、ファムトリップ事業を実施した。 ・2024（令和 6）年度も前年に引き続き台湾へのセールスコール事業を実施し、今後も台湾からの誘客をはメインになり得るため、選定する。 ・冬季においては、妙高市、白馬村にオーストラリアからのスキー観光客が訪れるため、スキー以外の糸魚川ならではの素材を活かした誘客推進を行うことで、インバウンド誘客が図られるため。
○取組方針 ・台湾においては、北アルプス日本海広域観光連携会議と連携し、台湾現地で開催される旅行物産展への出展、旅行商品造成を条件としたセールスコールを行い、台湾からの誘客促進を図る。 ・台湾人にはヒスイとの親和性も高く、アジアでは縁起のいい色が赤であることから、カニの人気とえちごトキめき鉄道のリゾート列車雪月花も人気が高いため、ヒスイとベニズワイガニ、雪月花を主力コンテンツとして発信する。 ・冬季のインバウンドは、妙高市、白馬村に訪れるオーストラリアからのスキー観光客をターゲットとし、長期滞在でスキーをしない家族を対象とした日中日帰りの着地型ツアーの実施、糸魚川にある飲食店と連携したグルメ周遊や体験ツアーによるインバウンドの誘客促進を図る。 ・一方で、台湾は国内全体で取り合いになり飽和状態であることから、周辺空港の就航状況や今後の就航を見据え、タイ、シンガポールなどの他の国も同時並行で誘客を進め、政情等に左右されない安定したインバウンド誘客を進めていく。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	国石・県石ヒスイ、石のまち糸魚川
②コンセプトの考え方	2009（平成 21）年 8 月に、日本で最初のユネスコ世界ジオパークに認定、2016（平成 28）年 9 月に、日本鉱物科学会により日本を代表する「国石」としてヒスイが選ばれ、2022（令和 4）年 11 月には新潟県により「県の石」としてもヒスイが指定をされるなど、糸魚川の地質、地形、歴史、文化、ヒスイなどのコンテンツが国内外に誇れるものになってきている。 これらのことを背景に、資源を守りながら活用し、持続可能な地域の発展を目指すことを観光誘客のコンセプトの基本としている。 また、石のまち糸魚川としてシティプロモーションを行ってきており、観光の観点では、地域の資源を再認識し、地域の魅力を効果的に発信するとともに、市民の地域に対する誇りを醸成していくためのコンセプトにもなっている。 石のまち糸魚川の核となるのはヒスイであり、ヒスイが生まれる地形地質を有するからこそ、特徴的な美しい景観、それによりもたらされる紅ズワイガニやあんこうなどの海産物、コシヒカリや山菜、野菜などの山の幸、雪国の文化と暮らしなどを一体的なストーリー性を持たせた事業を実施し、誘客推進を図っていく。 将来的には、国内外に誇れる糸魚川の素材を活かした誘客により、交流人口の拡大から、関係人口の増加、ひいては定住人口の維持・拡大を目指し 50 年先、100 年先も持続可能で明るく住みよい地域づくりを行っていく。

	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。
--	---

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	2017（平成 29）年 10 月 4 日に糸魚川版 DMO 連携会議を設立して、多様な関係者との合意形成の場を設置した。 2018（平成 30）年度は、DMO 連携会議を 2 回開催した。 また、着地型旅行商品の造成に係る宿泊施設や観光施設で構成した「旅行部会」を DMO 連携会議内に設立し、年 3 回会議を開催した。 2019（平成 31・令和元）年は 6 月 24 日に第 1 回連携会議を開催し、主な温泉宿泊施設地域内の各種イベントと二次交通（タクシー）を利用したプランの造成について協議した。 第 2 回は 7 月 24 日に開催し、インバウンド推進委員会との連携強化について、白馬パレーの状況を確認し、台湾をターゲットとしたモニターツアーの立ち寄り場所や体験等（高浪の池、サイクリング、食 等）について協議した。 2020（令和 2）年 1 月 15 日に、前年 1 年を振り返り、内容を検証。着地型旅行商品 19 本を実施し、目指せヒスイマスター（石拾い）は人気度が高い商品となっていたことから、次年度はテーマを絞って企画造成等を行うこととした。コロナ禍でのマイクロツーリズムを重点に近隣県の営業展開やプロモーションについて協議した。 5 月以降、緊急事態宣言やコロナ禍により、関係者と協議し、市と連携して DMO 連携会議メンバーや観光協会会員に向けて、協同意識を持って感染防止対策をしっかりと実施していることを宣言して明示する、「新型コロナ対策推進しています」ステッカーを製作して、アフターコロナに向けた取り組みを行った。 DMO 連携会議メンバー（温泉宿泊施設等）で、コロナウイルス感染防止対策の具体的な対応方法として、お客様へ料理の出すタイミングやデザートは部屋の冷蔵庫に入れておくなど、各業種のガイドラインの情報を共有した。 市が実施する統計調査に加えて、観光協会独自で主要温泉施設（DMO 連携会議メンバー）の宿泊者統計調査を実施し、ターゲット層の絞り込みや、食やイベント等でポスターやチラシの作成配布、FM ラジオやテレビ CM などを活用して、メリハリのあるプロモーションを実施した。 2021（令和 3）年 12 月 16 日に第 1 回会議 DMO 連携会議を開催し、多様な職種が参加している中からチームを作って、よりコンセプトの構築や企画提案していく体制とし、賛同者と商品企画する。インバウンド推進委員会を DMO 組織に組み込んで活動していく事について合意を得たが、新型コロナウイルス感染症の影響によりメールや web 形態での会議実施となった。 2022（令和 4）年度は前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響でリアルでの会議開催が当初は難しく、これまでの感染対策やコンセプト

	トに沿った石を活用したツアー造成を事務局と関係事業者と協議、連携のうえ造成、実施した。 また、教育旅行等で学生が気軽に変わるお土産の開発や地元高校と連携した新たなグルメ商品開発など、来るコロナ明けに備えた素材の磨き上げについて関係機関と web 等で協議を行った。 新型コロナウイルス感染症も落ち着き始めた3月24日に、リアルでの連携会議を行い、これまで行った取り組みの報告、2023（令和5）年度に向けた計画を確認。 2023（令和5）年度からは、糸魚川市観光協会がDMOに認定されていること、観光協会会員全体でDMOの事業方針や内容、運営について参画する必要があるとのことから、これまで一事業として行ってきた連携会議などを廃止し、観光協会総会、理事会として協議を行った。 2024（令和6）年度以降、糸魚川市観光協会がこれまで市町村合併の名残で残してきた、支部組織なども統合し、糸魚川市観光協会の体制をより強化し、DNO法人として観光を切り口とした地域づくりを進めていく。 DMOを中心として、宿泊事業者、物産展、飲食店などへ、年に数回ある各種キャンペーンのとりまとめや説明会などの際に、意見交換の場を設けており、関係事業者と常に連絡、共有できる体制を構築。 また、新潟県等とも連携し、観光庁補助事業の説明会などを適宜実施した。 DMOの活動状況を地域の関係者に周知するため、会員メールやHPでの報告を実施した。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	コロナ対策としての認証制度の継続、宿泊施設の「サクラクオリティ」の導入を推進する。 四半期ごとに宿泊者数のデータを市と観光協会とで共有しており、素早い対応ができる体制を構築している。 着地型旅行商品の販売や手配業務を一元的に進めており、ツアー参加者へのアンケート調査結果を、宿泊施設、観光施設等と情報共有し、満足度の向上に活用している。 また、着地型旅行商品企画や販売への意見交換を行うことで、各事業の情報共有と満足度やリピート率の向上等に向けた協議を行い、データに基づくPDCAサイクルを構築する。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	糸魚川市観光協会のホームページ内の旅行受付サイト「旅する糸魚川」を2020（令和2）年度に一新し、旅行商品の販売、予約、決裁を一元化した。 これまで、DMO、観光協会、行政、商工団体などの様々な団体がそれぞれに石やヒスイの情報発信を行ってきたが、2022（令和4）年度から行政の情報発信事業をDMO（観光協会）と統合し一本化、2023（令和5）年度以降、その他商工団体等が行う情報発信事業を極力DMOに一本化し、DMOが主体となって糸魚川市の情報発信を強力に発信していく体制を構築している。 また、2023（令和5）年度から公式LINEアカウントを新たに設置し、SNS等の情報発信をより充実させ、ツアー、体験、食などに関する情報を多くのフォロワーへ発信し、フォロワーによる情報の拡散を図っていく。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須K P I

指標項目		2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度	2027 (R 9) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	40,000	46,000	51,300	57,000	59,000	60,000
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	45,170	48,369				
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	150	160	160	170	170	180
		(4.0)	(4.0)	(4.0)	(4.2)	(4.2)	(5.0)
	実績	132.2	159.7				
●来訪者満足度 (%)	目標	90	90	90	90	90	90
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	77	86				
●リピーター率 (%)	目標	80	80	85	85	85	85
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	72	89				

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

日本列島東西文化の境目として、糸魚川市はその地質的特徴から、2009(平成21)年に日本初のユネスコ世界ジオパークに認定され、地形や地質がもたらす「食」、「文化」、「教育」を活用しながら交流人口の拡大に努めてきた。北陸新幹線糸魚川駅開業の2011(平成23)年度から「糸魚川ジオパーク観光動態調査」を市で実施し、今日までデータの共有化を図っている。

2017(平成29)年10月に「糸魚川版DMO連携会議」を設立し、着地型旅行商品の開発と、多様な関係者との合意形成の場を設置する事ができたため、これらの指標を、宿泊施設や観光施設など、民間主導での活用と戦略に活かせる仕組みづくりができてきた。

2019(平成31・令和元)年度以降、目標達成に向けて着地型旅行商品の企画造成、販売を増加させている。これまで取り組んできた着地型商品の商品数増加と高付加価値化による高単価ツアー販売に向けた検討、モニターツアーの実施など、2025(令和7)年度以降に繋がる事業を行っており、それらを見据えた数値を設定。

※K P Iとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

.....

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

宿泊施設の利用傾向が、1泊2食付から朝食のみが増加しているなど、全体的な消費単価が減少する中、いかに単価を上げていくかが課題となっている。

DMO連携会議では、「糸魚川でしか食べられないメニューやお土産品」について意見交換されており、糸魚川商工会議所が展開するブランド商品「むすびいと」と連携して、旅行者が消費意欲を高めるようなブランド化を行ったほか、旅行先でのプラスワンとなるお土産品の開発(1,100円程度)や地元高校と連携した新たな特産メニューの開発、着地型体験メニューの開発を行うことで購買意欲を向上させる取り組みを実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コロナ禍においては厳しい状況ながらも設定したが、コロナ明けである2023(令和5)年度以降は、徐々に回復させ2年後の2025(令和7)年度にはコロナ前を超える数値を目標に掲げた。

●延べ宿泊者数

コロナ禍ではあったが、国や県、市の宿泊キャンペーンの実施により、宿泊者数の増加が図られたが、まだ厳しい状況が続いている。

例年、冬期間での宿泊者数が少ないことから、糸魚川の観光素材「糸魚川荒波あんこう」を中心とした料理や、地酒を結びつけて宿泊に繋がる事業展開を進め、市の総合計画で目標としている2024(令和6)年度述べ宿泊者数160,000人を目指す。

コロナ明けである2025(令和7)年度以降は、北陸新幹線敦賀延伸後の効果と大阪万博等を控えている中、関西エリアからの誘客を中心に情報発信を行い、コロナ前を超える数値を目標に掲げた。

●来訪者満足度

来訪者満足度は、概ね80%前後を推移している。「施設・景観」「お店の対応」「お土産」の3項目について調査しているが、お土産の満足度が約65%程度と他の項目と比較すると低迷しており、土産品開発とブランド化が必要となっている。

そのため、気軽に旅先で購入できる新たなお土産開発に取り組むほか、各施設での顧客データやニーズ把握を共有し、既存のお土産品の特徴を強調する演出などのブラッシュアップや販売施設での演出改善を行い、全体の来訪者満足度の底上げを行いながら、観光圏のトップ水準となる満足度90%を目指す。

●リピーター率

リピーター率は80%前後を推移しており、小滝川ヒスイ峡・高浪の池での絶景やフォッサマグナミュージアムでの鉱物や地質の学習、道の駅マリンドリーム能生でのベニズワイガニの食事など、旅マエの段階から糸魚川へ目的を持って来訪されるお客さまが増加している。

新規来訪者の掘り起しも重要であり、特にコロナ禍においてはジオパークを基本とした独自性を意識した観光素材を、映像や動画などを使ってプロモーションすることにより、現地訪問への動機付けとなる体験商品を企画造成して、ハイブリッド観光による新たな顧客の獲得を推進した。

2024(令和6)年度以降も上記コンテンツに加え、石拾いのツアー参加者が増加傾向であり、中には毎年参加している方も多くいることから、少しずつリピーターの獲得ができています。

2025(令和7)年度以降も引き続き商品開発、磨き上げを行い、リピーター率の高水準を維持していく。

(2) その他の目標

指標項目		2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度	2027 (R9) 年度
●観光入込客数 (人)	目標	1,600,000 (2,550)	1,700,000 (3,000)	1,800,000 (4,200)	1,900,000 (4,200)	2,000,000 (5,000)	2,000,000 (5,000)
	実績	1,747,583 (56)	1,909,550 (1,874)			1,340,160 (20)	
●ホームページ 訪問者数 (人)	目標	300,000 (-)	360,000 (-)	380,000 (-)	400,000 (-)	420,000 (-)	420,000 (-)
	実績	358,245 (-)	375,184 (-)				
●Facebook フォ ロワー数 (人)	目標	2,200 (-)	2,500 (-)	2,700 (-)	2,900 (-)	3,000 (-)	3,000 (-)
	実績	2,440 (-)	2,591 (-)				

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

必須KPIと同様、糸魚川市全体の経済動向を注視して新たに追加設定していく予定。

【設定にあたっての考え方】

●観光入込客数

市が実施する（温泉・名所旧跡・祭・スキー場等）の観光入込客調査地点による観光統計による数値で、月別やジャンル別等の状況も把握できる基本的なデータである。

●ホームページ訪問者数

糸魚川市観光協会のホームページ内の旅行受付サイト「旅する糸魚川」を2020（令和2）年度に一新したことにより、アクセス数が増加しており、毎年5～10%程度の増加を見込んでいる。

●Facebook フォロワー数

SNSの利用者数は増加を見据えて、毎年200件程度の増加で見込んでいる。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2021（R3） 年度	57,909,573 円	【会費】 2,347,000 円 【市町村からの補助金】 22,000,000 円 【公物管理受託】 22,779,000 円 【旅行業】 1,350,000 円 【収益事業】 4,098,400 円 【雑収入】 4,335,173 円

2022 (R 4) 年度	87,356,177 円	【会費】 2,203,500 円 【市町村からの補助金】 22,708,000 円 【県からの補助金】 1,200,000 円 【公物管理受託】 35,263,320 円 【旅行業】 13,530,095 円 【収益事業】 4,182,369 円 【雑収入】 8,268,893 円
2023 (R 5) 年度	80,072,557 円	【会費】 3,141,750 円 【市町村からの補助金】 50,900,000 円 【公物管理受託】 10,940,016 円 【旅行業】 4,643,170 円 【物品販売】 6,842,090 円 【その他収益事業】 3,157,435 円 【雑収入】 448,096 円
2024 (R 6) 年度	92,863,000 円	【会費】 4,390,000 円 【市町村からの補助金】 52,400,000 円 【公物管理受託】 11,322,000 円 【旅行業】 10,000,000 円 【収益事業】 9,000,000 円 【雑収入】 5,751,000 円
2025 (R 7) 年度	93,400,000 円	【会費】 4,400,000 円 【市町村からの補助金】 53,000,000 円 【公物管理受託】 12,000,000 円 【旅行業】 11,000,000 円 【収益事業】 10,000,000 円 【雑収入】 3,000,000 円
2026 (R 8) 年度	95,500,000 円	【会費】 4,500,000 円 【市町村からの補助金】 53,000,000 円 【公物管理受託】 13,000,000 円 【旅行業】 12,000,000 円 【収益事業】 10,000,000 円 【雑収入】 3,000,000 円
2027 (R 9) 年度	97,500,000 円	【会費】 4,500,000 円 【市町村からの補助金】 53,000,000 円 【公物管理受託】 13,000,000 円 【旅行業】 13,000,000 円 【収益事業】 11,000,000 円 【雑収入】 3,000,000 円

(2) 支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2021（R3） 年度	52,787,591 円	【観光宣伝・キャンペーン事業】 3,191,833 円 【観光客受入事業】 686,211 円 【誘客推進事業】 1,800,000 円 【インバウンド推進事業】 200,000 円 【観光イベント事業】 4,714,042 円 【受託事業】 19,209,000 円 【旅行業事業】 4,164,712 円 【一般管理費】 18,821,793 円
2022（R4） 年度	84,503,749 円	【観光宣伝・キャンペーン事業】 9,747,672 円 【観光客受入事業】 2,770,883 円 【誘客推進事業】 4,345,421 円 【インバウンド推進事業】 200,000 円 【観光イベント事業】 7,697,939 円 【受託事業】 19,791,021 円 【旅行業事業】 13,353,989 円 【一般管理費】 26,596,824 円
2023（R5） 年度	76,810,154 円	【一般事業】（誘客宣伝業務） 13,885,821 円 【支援事業】（旅行商品造成支援） 3,624,000 円 【受託事業】（施設管理） 16,561,014 円 【総務管理事業】（事務局運営） 42,739,319 円
2024（R6） 年度	81,000,000 円	【一般事業】（誘客宣伝業務） 16,000,000 円 【支援事業】（旅行商品造成支援） 4,000,000 円 【受託事業】（施設管理） 17,000,000 円 【総務管理事業】（事務局運営） 44,000,000 円
2025（R7） 年度	85,500,000 円	【一般事業】（誘客宣伝業務） 17,000,000 円 【支援事業】（旅行商品造成支援） 4,000,000 円 【受託事業】（施設管理） 17,500,000 円 【総務管理事業】（事務局運営） 47,000,000 円
2026（R8） 年度	90,000,000 円	【一般事業】（誘客宣伝業務） 18,000,000 円 【支援事業】（旅行商品造成支援） 4,000,000 円

		【受託事業】（施設管理）	18,000,000 円
		【総務管理事業】（事務局運営）	50,000,000 円
2027（R9） 年度	90,000,000 円	【一般事業】（誘客宣伝業務）	18,000,000 円
		【支援事業】（旅行商品造成支援）	4,000,000 円
		【受託事業】（施設管理）	18,000,000 円
		【総務管理事業】（事務局運営）	50,000,000 円

（３）自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

着地型旅行商品の企画造成、販売による収益、及びグッズ販売等の新たな収益を継続し、運営資金の中核とする。

旅行商品の企画造成を強化するため、令和４年度までは旅行会社からの在籍派遣を実施し、地域の観光素材の活用や磨き上げ、特性を活かした旅行商品の造成販売、関係事業者との調整等を行うとともに、プロパー職員のスキルアップを推進してきた。

令和５年度からは、新たにデータマーケティング分析、プロモーション、ＤＸ化に長けた企業から在籍派遣を実施し、企画造成した商品を的確にプロモーション、販売できるようなスキルアップを推進し、限られた予算の中で効率的な執行、それによる誘客効果を高めることができた。

令和６年度は、適格なマーケティング分析を根拠とした戦略策定、戦略に基づいた旅行商品の企画、造成、販売を行い、収益向上により新規人材の採用など、体制の強化を図ることができている。

令和７年度以降も、収益向上を図りながら、観光地域づくりの中心的役割を担えるよう、引き続き組織体制の強化を図っていく。

市からの受託事業である、ジオラマ鉄道模型ステーション管理業務を継続して請け負い、安定的な収益源としていく。

レンタサイクル事業では、消費額向上に向けて、観光施設や飲食店等と連携した取り組みを実施して、利用者数の拡大を推進する。

地域の祭りやイベント等の事務を受託するなど、新たな収益源の確保を検討していく。

地方公共団体における宿泊税の導入については、市、関係者と協議していく。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

糸魚川市は、一般社団法人糸魚川市観光協会を糸魚川市における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人糸魚川市観光協会とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

なし

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	岡田 一貴
担当部署名（役職）	（一社）糸魚川市観光協会（課長補佐）

郵便番号	941-0061
所在地	新潟県糸魚川市
電話番号（直通）	025-555-7344
FAX番号	025-555-7364
E-mail	Itoigawa-kanko@ae.wakwak.com

1 1. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	新潟県上越・糸魚川地域振興局
担当者氏名	玉井 宣雄
担当部署名（役職）	地域振興監
郵便番号	941-0052
所在地	新潟県糸魚川市南押上1丁目15番1号
電話番号（直通）	025-553-1843
FAX番号	025-552-9944
E-mail	tamai.norio@pref.niigata.lg.jp

都道府県・市町村名	糸魚川市
担当者氏名	山岸 由尚
担当部署名（役職）	産業部商工観光課交流観光係（係長）
郵便番号	941-8501
所在地	新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号
電話番号（直通）	025-552-1511
FAX番号	025-552-7372
E-mail	kanko@city.itoigawa.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

新潟県糸魚川市

【設立時期】平成29年1月24日

【設立経緯】

①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】龍見 和弦

【マーケティング責任者(CMO)】岡田 一貴

【財務責任者(CFO)】齊藤 清一

【職員数】25人(常勤8人(正職員5人・出向等3人)、非常勤17人)

【主な収入】

収益事業 15.1百万円、委託事業 10.9百万円(令和5年度決算)

【総支出】

事業費 34百万円、一般管理費 42.7百万円(令和5年度決算)

【連携する主な事業者】

糸魚川旅館組合、糸魚川民宿協会、JR西日本、えちごトキめき鉄道
糸魚川バス、糸魚川ハイヤー協会、加賀の井酒造、糸魚川観光物産
センター、伊藤商会(自転車)など

KPI(実績・目標)

記入日: 令和6年12月5日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2022 (R4)年	2032 (R5)年	2043 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年	2027 (R9)年
旅行 消費額 (百万円)	目標	40,000 (-)	46,000 (-)	51,300 (-)	57,000 (-)	59,000 (-)	60,000 (-)
	実績	45,170 (-)	48,369 (-)	—	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	150 (4.0)	160 (4.0)	160 (4.0)	170 (4.2)	170 (4.2)	180 (5.0)
	実績	132.2 (0.06)	159.7 (1.87)	—	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	90 (-)	90 (-)	90 (-)	90 (-)	90 (-)	90 (-)
	実績	77 (-)	86 (-)	—	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	80 (-)	80 (-)	85 (-)	85 (-)	85 (-)	85 (-)
	実績	72 (-)	89 (-)	—	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

国内旅行観光客(関東圏、関西圏、隣県)のファミリー層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・石のまちいといがわをコンセプトに、石にまつわる体験、グルメ等を取り入れた旅行商品の企画造成、プロモーションを実施する。
- ・北陸新幹線敦賀延伸と、来る大阪万博などの機会を活かし、関西圏への情報発信を強化し、誘客を図る。
- ・隣県においては、長野県には夏の海水浴、ベニズワイガニ、富山県には冬のあんこう料理をPRし、誘客推進する。

【観光地域づくりのコンセプト】

国石・県の石ヒスイ、石のまち糸魚川

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・ヒスイ、石拾い体験ツアーの企画造成
- ・学芸員ガイドツアーの企画造成
- ・あんこうフェア事業の磨き上げ
- ・新たなお土産、グルメ開発の実施
- ・新規顧客獲得のためのイベント実施

【受入環境整備】

- ・観光案内所の設置案内
- ・多言語対応可能なAI案内の導入
- ・ジオパル管理、アミューズメント整備
- ・旅行商品造成支援事業の実施
- ・教育旅行プログラムの造成

【情報発信・プロモーション】

- ・国内外に向けた広告宣伝の実施
- ・石フェスの企画実施
- ・営業、商談会活動の実施
- ・大糸線の魅力発信
- ・住民観光満足度調査の実施
- ・SNS登録キャンペーンの実施

【収益事業】

- ・その他旅行商品、物販事業の企画販売
- ・レンタサイクル事業の実施
- ・収益イベントの企画、開催
- ・受託事業の実施

